

- ▶ 三重県の森林面積は373千haで、県土の65%を占めており、そのうち94%は民有林です。このうち国有林は22千ha（約6%）となっています。  
民有林では、スギ、ヒノキを中心とする人工林が218千haで、人工林率が63%と全国平均の46%を大きく上回っています。人工林の資源構成は8齢級以上（41年生以上）の林分が85%を占め、1～2齢級（10年生まで）の林分は1%となっています。また、人工林、天然林ともに10齢級（46～50年生）の林分が最も多くなっており、木材等生産機能と地球温暖化防止機能の発揮の観点からは、これらの成熟した森林資源を伐採し、利用した上で跡地に再造林を行う「若返り」が求められています。  
一方、国有林の人工林率は48%と全国平均並みであり、養老・鈴鹿山系、台高山系の奥地脊梁地帯に多く分布しており、国土の保全や水源涵養等の公益的機能の発揮に重要な役割を担っています。
- ▶ 三重県との地域林政連絡会議（6月開催）では、平成28年度の地域課題の解決に向けた取組の総括を行い、平成29年度の民国連携の取組に向けて、木質バイオマス等の安定供給、シカ被害対策、低コスト林業等について意見交換を行いました。特に、三重県の素材生産量の伸び率は全国でワースト3位であり、林業生産活動の活性化の面からも民国連携による主伐・再造林の取組が重要となっています。
- ▶ 国有林が所在する市町の地域課題や共通課題を把握するため、今後、各種会議や担当者との意見交換等を活用しながら幅広い情報収集を行い、課題解決に向け連携した取組を展開していくこととしています。



（三重県との地域林政連絡会議の様子）

## 林産物の安定供給

【課題1】 素材生産事業の拡大（継続）

【取組状況】

- 6月に、北勢地域の国有林と隣接する民有林（森林整備センター津水源林整備事務所・岐阜県森林公社・岐阜県森林公社・岐阜県海津市太田自治会）とで、民国連携による効率的な森林施業を目的とした「悟入谷・古野裏山地域森林共同施業団地」の協定に基づく連絡調整会議を開催。今後、現地検討会を開催し更なる効率化を目指す。
- 複層伐等主伐箇所の選定を進める。

【成果と今後の課題】

- 今後とも、協定関係者により、民国を一体に考えた双方に有益な森林作業道の線形や山元土場の作設、今後の森林整備の進め方についての検討を進め、連携効果の早期発現を図る。⇒他地域への波及効果
- 造林コストの削減とネックとなっているシカ被害対策としてシカの捕獲に向けた検討を進める。



（高性能林業機械による生産事業）

【課題2】 木質バイオマス発電所への間伐材等の供給対策（継続）

【取組状況】

- 未利用間伐材等のシステム販売量を拡大。協定に基づき、低質材は主に木質バイオマス発電の用途に利用。
- 三重県木質バイオマスエネルギー利用推進協議会へ参画し、林産物の安定供給に向けた情報交換を実施。

【成果と今後の課題】

- 悟入谷国有林外6の素材生産事業において、協定に基づき1,114m<sup>3</sup>をバイオマス燃料用として供給（9月末時点）。引き続き、木材の安定供給に向けて素材生産事業を予定。

## 希少野生動物の保護

【課題】 オオダイガハラサンショウウオの保全対策（継続）

【取組状況】

- 大杉谷国有林において、三重県指定天然記念物、（国）絶滅危惧Ⅱ類であるオオダイガハラサンショウウオの保護を目的に、両生類の専門家による指導のもと、三重県教育委員会、三重県治山林道課、三重森林管理署による現地学習会を実施。

【成果と今後の課題】

- 専門家の見地に基づく意見から、治山・林道工事の施工に係るオオダイガハラサンショウウオ（幼生）の保護効果を認識することができ、今後、治山工事等の施工にあたって、幼生等の捕獲・移動について検討。



（現場学習会の様子）



（生息調査の様子）

## 治山対策の推進

### 【課題1】連携した災害復旧事業①（継続）

#### 【取組状況】

- ・ 鍛冶屋又崩壊地の復旧対策を推進するため、7月に3者協議会（署、県、町）を開催し、事業の実施状況及び今後の進め方についての調整を実施。

#### 【成果と今後の課題】

- ・ 平成29年度は、国有林において既設のスリットダムに堆積した土砂の撤去と流木の除去、三重県においては溪間工事0.5基を実施予定。
- ・ 作業道作設に伴う支障木や土地の形質変更等に係る手続きが、3者協議によりスムーズに行うことができ、早期の工事着手に寄与。
- ・ 無人航空機を活用した崩壊地の現況把握を行い、3者間で情報共有を図るとともに、復旧対策の実施状況について、漁協等関係者への情報提供を進めていく。



（H28施工したスリットダム）



（既設スリットダムの流木等を捕捉した様子）

### 【課題2】連携した災害復旧事業②（継続）

#### 【取組状況】

- ・ 三重県との治山事業連絡調整会議等により、国有林、民有林間の事業の調整及び情報の共有を実施。
- ・ 平成23年の台風12号により被災した大又川支流の地域において、大又特定流域総合治山対策により、三重県、国有林が連携して災害復旧対策を実施。
- ・ 平成29年度は、国有林において溪間工事0.5基を実施。

#### 【成果と今後の課題】

- ・ 国有林、民有林が近接している地域において、一体的な全体計画を作成し、国有林と民有林が連携して効率的・効果的な荒廃地の復旧整備を実施。
- ・ 今後、全体計画に基づき連携・疎通しつつ計画的な進捗を目指す。



（国有林で施工した溪間工事）

## 林業技術の普及

### 【課題】シカ被害対策技術の普及（継続）

#### 【取組状況】

- ・ 大杉谷国有林の未立木地における森林植生の回復を効果的かつ効率的に進めるため、民間精通者を講師に迎え、関係機関（京都府立大学、津水源林整備事務所、県、大台町、紀北町、宮川森林組合等）と現地勉強会を開催。

#### 【成果と今後の課題】

- ・ 引き続き、地池林道周辺地域での捕獲事業と連携した森林植生の回復に取り組む。
- ・ 獣害対策については、防護柵の維持修繕費も含めたトータルコストでの比較検討も必要。また、箇所別に効果的なディフェンス方法の具体検討が重要。
- ・ 国有林の地域別森林計画への反映と手法の検討。



（現地勉強会の様子）

## 鳥獣被害対策の推進

### 【課題】大杉谷国有林における二ホンシカ被害対策（継続）

#### 【取組状況】

- ・ 二ホンシカ被害対策に係る現地検討委員会を6月に開催し、効果的なシカ捕獲手法の検討、森林被害対策の検証及び今後の被害対策の進め方を検討。
- ・ 森林植生の回復（地域性苗木の植栽等）が必要な地域において、6月から、囲い罠、くくり罠による二ホンシカの捕獲を実施。（捕獲目標50頭）

#### 【成果と今後の課題】

- ・ 高標高域におけるシカ被害対策を推進するため、二ホンシカ生息状況調査の実施、森林被害対策指針実施委員会における被害対策の検証及び進め方の検討等を行うとともに、連携捕獲の実施等環境省、県、市町村との連携を強化する。
- ・ 引き続き、森林植生の回復が必要な地域において、効率的かつ効果的なシカ捕獲を進めるとともに、植生回復に対する捕獲効果の検証方法の確立を目指す。



（検討委員会の様子）